

Rd.2 FUJI SPEEDWAY SUPER GT

NISSAN MECHANIC CHALLENGE

Race report
2026.5/3Sun-4Mon

Kovdo
Racing Team



- NISSAN REALIZE GROUP YOKOHAMA Nihon Mobility Service ALTA 日産車体 UD UD TRUCKS AICHIKIKAI PRESTIGE INTERNATIONAL
 日産モータースポーツ&カスタマイズ ROCK PAINT Quick Pro Paint YEARS COAT TOPPAN Energywith エムエスピー NISSAN SERVICE CENTER CMCエクスマニコム
 NGK NTK KAMMOTO Döff SUNTORY PONS mini:mini GA INVESTMENT T4 PUMA LSI FOR LSI LS KSB Arel Kovdo
- 日産東京 日産神奈川 日産愛知 埼玉日産 日産大阪 NISSAN 日産プリンス福島 日産プリンス埼玉 岐阜日産 京都日産 兵庫日産 鹿児島日産
 秋田日産 日産サテライト秋田 日産プリンス秋田 日産プリンス宮城 福井日産 日産プリンス栃木 栃木日産 長野日産 日産サテライト埼玉 千葉日産 日産プリンス千葉 静岡日産 浜松日産 日産プリンス静岡 三河日産
 日産プリンス三重 三重日産 和歌山日産 滋賀日産 岡山日産 日産プリンス兵庫 日産プリンス広島 日産プリンス山口 愛媛日産 香川日産 日産福岡 日産サテライト佐賀 日産プリンス長崎 熊本日産 日産プリンス大分
 旭川日産 北見日産 帯広日産 日産サテライト弘前 岩手日産 日産プリンス岩手 新潟日産 日産サテライト新潟西 福島日産 群馬日産 日産富山 石川日産 日産プリンス金沢 甲斐日産 松本日産 日産サテライト千葉
 日産自動車販売 日産サテライト浦南 日産プリンス和歌山 日産サテライト福山 日産プリンス熊本

日産愛知自動車大学校

Rd.2 FUJI SPEEDWAY

Race Result……P.3

近藤真彦監督 interview
……P.5

- ・「マッチのマーチ」久しぶりのMT 乗り心地は？
- ・オフショット



オリベイラ選手 interview
……P.7

- ・上位の秘訣
- ・オフショット



木村偉織選手 interview
……P.9

- ・新しいチームの感想
- ・オフショット



学生からの質問コーナー
……P.11

- ・「木村流」落ち込んだ時の立ち直り方
- ・オリベイラ選手のレース中
& 葉山さん interview



RACE REPORT

杉本理事長 interview……………P.13

・就職活動をする学生へ

阿南学長 interview ……………P.14

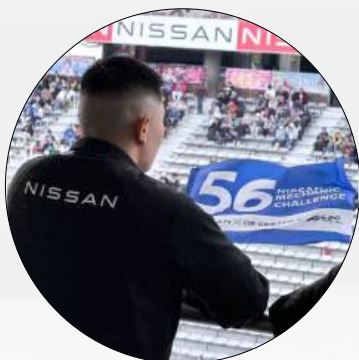
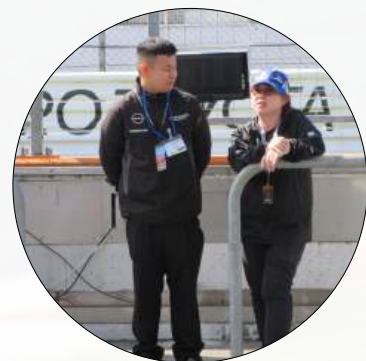
・成長してほしいこと

学生 interview……………P.15

- ・統括 平田「メカチャレで得たもの」
- ・マネジメント 木村「後輩たちの様子」
- ・ドライバーサポート 長津「ピットの緊張は」
- ・テクニカル 駒村「理想の整備士像」

Photo Gallery……………P.17

あとがき「広報裏話」……………P.19



渋滞による大遅刻!?

5月2日、私たちメカニックチャレンジ学生メンバーは渋滞に巻き込まれ大遅刻……。その結果、予定していた撮影に間に合わず、撮影指導をしてくださっている鹿野さんに素晴らしい写真を提供していただきました!! (右の写真大感謝)

以降は学生の撮影した写真でお届けします。



Race Result

Qualifying

Position 6

天気好転 期待できる予選!?

前日の雨予報から一転し、曇り空のもと行われたGT300予選、Q1を走るのは木村偉織選手。自己ベストを更新し続け、Q1突破。期待のかかるQ2を走るのはJPオリベイラ選手!ここであいにくの雨模様か。コース上は、ウェット宣言が出されレインタイヤに変更可能となったが、走行にそこまで影響はなかった模様。56号車は6位という上位争いが狙える熱い展開。レース後半からの追い上げが強い56号車。決勝のレースが期待できます。





Race Position 1

乗った表彰台！序盤から攻める 56 号車

序盤のドライビングはオリベイラ選手。ファーストラップから果敢に攻め、ランキングをふたつ挙げ4位に。さらに61号車のタイヤトラブルにより順位を上げ、52号車、61号車を追い越し2位に。さらに魅せる。37周目にはピットタイミングが功を奏し嬉しい1位のポジションを獲得！その後フルコースイエローが出るも順位をキープ。45周目で木村選手にバトンタッチ、2位との差をガンガン広げていきます。1位をキープしたまま85周目でピットイン。タイヤとドライバーを交代し、オーバーカット成功。そのまま残り時間40分以上の間2位を抑え続け、1位でゴールイン。3年ぶりの優勝となりました!!!!!!

文：岩下



近藤真彦 監督 Interview

Q. マーチの乗り心地は？

A. 楽にドライブできた

5校の共同企画「マッチのマーチ」その愛車の感想を近藤監督にインタビューしてきました!! 以下、監督のコメントです。

「楽にドライブできたよ。ほんとに楽にドライブできた。というのは、(僕が) マニュアルにしてくれって言った割には、もう何十年ぶりにマニュアル乗ったんだよ。でもクラッチミート、ギアだったりミッションだったり (編注: マニュアル車の操作) が全部スムーズにいった。40年以上前の車だとは思えないくらい全部がスムーズだった。これはもうよく頑張ってくれたなと思ったよ。みんな。ブレーキも心配なしに走れるんで」。

監督のこの言葉で、学生一同安心です。

文: 岩下



●ホスピタリティエリアに登場する近藤監督。学生たちに囲まれたアーケードをまるでマラソンランナーのゴールシーンのように駆け抜けていられました。ハイタッチできた学生はとても喜んでいました

●広報学生からの無茶振りに応える近藤監督。さすが監督！旗振りゲームでも魅せてくれました。カッコいい監督の無茶振り動画の詳細内容は日産大学のInstagram、YouTubeを確認してね♡



インタビューした学生の感想

近藤監督とは初めてお話させていただいて緊張しましたが、監督が笑顔で対応してくださったので話を引き出すことができました。ただ、時間管理を怠ってしまい、監督との限られたインタビューの時間を押してしまったのでこの反省を生かし今後は気をつけながら活動していきたいと思います。

インタビュアー：小林



オリベイラ選手 Interview

Q. トップ争いの秘訣？

A. チームワーク

「秘訣は、チームワークだと思います。Kondo Racing とは一緒に強いチームを作り上げてきました。もちろん秋山さんたち（編注：チーフエンジニア）のサポートがあり、僕たちの車を担当しているメカニックたちはとても多くの経験を積んでいます。なので、準備の面でも強いバックアップがあると思います。それから、自分もドライバーとして悪くはないコンディションと思うので、少しは成功に貢献できているかなと思いますし、自分の経験を役立てられていると思います。今年はまた新しいチームメイトと一緒にですが、チャンピオンシップを争える良い位置にいると思っています。これからも常に優勝争いに絡む存在であり続けたいですね」。

文：岩下



木村偉織 選手 Interview

Q. 新しいチームは？

A. プロフェッショナルなチーム

「最初にお話し（編注：オファー）をいただけた時は本当にびっくりというか、自分がまさかこのチームでレースできるチャンスが来るとは思ってなかったので、すごく嬉しかったですね。ワクワクしました。早く運転したいなって待ち遠しい気持ちでした。今の印象は、やっぱり毎年チャンピオン争いに加わるそういう強いチームなので、じゃあ特別なことを何かしてるかって言ったら、やっぱり当たり前前のことをちゃんとやり切れるっていうことが特別なことだと思ったと思います。なので、みんな本当は当たり前前のことは当たり前にしっかりやっているっていうところでプロフェッショナルなチームだなと思っています」。

文：岩下



● 真剣な表情で旗振りゲームをする木村選手。天才的な理解力で、広報学生も気がつかなかったルールの穴を発見してくださりました。その結果、新ルール追加でも流石の対応力。凄すぎます

● 決勝直前、学生と一緒にタイヤの状態を確認する木村選手。この入念なチェックが勝敗を分けます。一緒にいる学生はこの状況にきっとドキドキしていたことでしょう



インタビューした学生の感想

今季から Kondo Racing に加入され、初めはどのようなお人柄か分からず、不安もありました。ですが、私の質問に熱心に答えてくださりとてもお話がしやすかったです。特に、愛知校恒例の無茶振り「旗振りゲーム」でオリベ이라選手への説明を英語が苦手な僕の代わりにサポートしていただきとても感謝しています。 インタビュアー：加藤



学生からの質問コーナー

今回メカニックチャレンジに参加することができなかった愛知校の学生から質問を集めて、私たち広報の学生が直接聞いてきました！

木村伊織流 落ち込んだ時の立ち直り方 「納得するまで考える」

木村選手はポジティブで明るく見えるが、意外と引きずるタイプとのことで、とにかく自己分析を繰り返し納得するまで考えていくそうだ。納得するまで考えることで「だからこうだったんだ」と気持ちを飲み込むことができ、次に向けて気持ちを切り替えることができるのだとか。

例えば、前回岡山のレースでは、ミスの結果、ペナルティを受けてしまいました。その時、木村選手は、どうしてそれが起こってしまったのか、その時の精神状態ってどうだったのかを納得するまで考えていたそうです。

オリベイヤ選手のレース中 「その時起きていることに反応」

オリベイヤ選手は走る時に何を考えているのか。答えは、「そんなに考えていない」とご回答いただきました。なぜなら、一番大事なことは反応することだから。その時々起こることに対応するために、いつでも反応して、チャンスやピンチに備える必要があるそうです。

でも一番大切なのは、チームとのコミュニケーションでそのために少し考えなければならないけど、考えすぎず、100%集中してプッシュすることに集中することが大切だそうです。

近藤監督に学生からの質問ご回答いただくことは、こちらの不手際でかないませんでした。かわりに近藤レーシングのマネジメントを担当している葉山さんにインタビューすることができたのでお届けします。裏話をすれば、近藤監督のカレーの話が盛り上がりすぎ、15分という限られた時間をオーバーしてしまいました（大謝罪）。そのため、この無念は鈴鹿戦に持っていこうと思います！ 次回の愛知校の動画、レポートをお待ちください。また、採用されなかった学生の皆さんごめんなさい。次回ご期待ください。

MK カンパニー

葉山部長 Interview

Q. 昔の日産校生との違い

A. チームの一員って気持ち

「プロジェクトを始めた最初の頃に比べたらみんなすごいチームワークのある状態を作ってきてくれているので、我々としても落ちついてスムーズに作業ができていますので、すごくやりやすい。今ではなくてはならない存在というか、チームの一員という気持ちで我々もいます」。

文：岩下



杉本 理事長 Interview

就職活動をしていく学生へのアドバイス 思いをぶつければ道は開ける

「まずは一生懸命、勉強に励んでもらいたいと思います。あとは学生生活を本当に楽しんでいただきたいです。そのなかで、必ず自分のやりたいことが見つかると思うので、そのやりたいことをその先でどのように挑戦するのかというのを考え、思いを相手にぶつければ、その道は必ず開けると 생각합니다。

また、やりたいことをやる人、何か自分で楽しみを見つけられる人、例えば自分発でいろいろなことができる人、そういう人が求められると思います。なので自分がやりたいんだ！ という思いをぜひ伝えてもらいたいと思います。」 インタビュアー・文：岩下



阿南 学長 Interview

Q. 学生に成長してほしいこと

A. プロフェッショナルなチーム

「メカニクチャレンジを通じて、実際の社会のようにいろいろな方たちと一緒に働く経験をすることで、学校だけでは学べないことを学んでいただきたいなと思います。

もうひとつが、学生の皆さんで、チームを組んでやっていただいていると思います。そのなかで、それぞれの役割を担当しながら、皆さんで相談して、互いに助け合ったり、それぞれの強みを活かしたりというチームワークっていうのを学べたらいいなと思います」。

インタビュアー：加藤 文：一ノ瀬、岩下

メカニックチャレンジで得たものは？ 「まとめる力」

「これまでは、班員として自分が今何をすべきかを考えて動いたり、誰かに言われる前に動けるようにしたりと気付いたことは、自分で動くことを意識していました。

でも、今回統括（編注：学生全体のリーダー）を務めてから気付いたことは、自分で動く

のではなく、他の班長・班員に指示を出さなくてははいけません。さらに、グループ全体の状況に応じて、上手く動かさないといけないため、今回の経験ではこれまで得ることの出来なかった全体をまとめる力を得ることができたと思います」。

インタビュアー：小林 文：岩下



統括 3年
平田 瑛大



マネジメント 4年
木村 斗哉

後輩たちの様子は？

「みんな意欲的」

「今回のメカニックチャレンジは、僕たち4年生ではなく、2・3年生の後輩たちがメインで活動をしていました。にもかかわらず、僕たちの手助けなしでもみんなすごく活気を持って活動をしていてくれました。後輩たちが自分の仕事が終わってからも、僕たち先輩にこれはどうすればいいですかと積極的に聞いてくれることが多かった印象です。なので、みんな意欲があっていい活動になったと思います」。

インタビュアー：小林 文：岩下

ピット内は？

「謎の間と緊張」

「数秒、コンマ数秒を争う世界では、誰1人ふざける人はいません。モニターにてリザルトを見ているかライブ映像を見ている状態です。チームの方たちはヘッドセットをしていて、話しかけても聞こえないくらい集中し、とても緊張感のある現場です。そのなかで、孤独を感じつつもピットインのタイミングをメカニックの方の動きで感じ取りながらチームのマネージャーの方のところに向かい、ドリンクとタオルを受け取ります。そしてドリンクとタオルをドライバーに渡すのですが、ドライバーのみなさんは、公式予選や練習後はエンジニアの方やメカニックの方と話すことが多いので渡すタイミングが分からずに謎の間と緊張が交互に現れてしまいます。また、ドリンクとタオルを受け取っていただいた時に“ありがとう”などの声をかけていただくこともあり仕事のやりがいを感じていました」。インタビュアー・文：岩下



ドライバーサポート 4年
長津 望人



テクニカル 2年
駒村 樹

理想の整備士像は？

「頼り甲斐のある整備士」

「今回のメカニックチャレンジの経験を通じ、長く続けるには仲間とのコミュニケーションや協力は大切であると学びました。また、目標とするGT-R認定整備士には推薦も必要となります。学校でも実習班メンバーも大切な仕事仲間なので信頼される存在に

なれるように日々努力しています」。

インタビュアー：小林 文：岩下



Photo Gallery





あ と が き 広報裏話

今回の活動は、私たち広報メンバーにとって大きな挑戦であった。それは、決勝日に提出。今までレポートは1週間、YouTubeに公開する動画は2週間程度の猶予があった。それを両方とも決勝日当日に提出しなければならない。正直燃えた。「なんとしてもこの課題をクリアしてやる！」私たち広報メンバーはそんな気持ちで活動をスタートした。

さらに伝えられた課題はレポート1500文字以内、動画は5分以内の監督インタビュー中心。皆様ならばもうお気づきであろう。恐ろしいことにこのあとかきを含めてあとかきを抜いた本文だけで3700文字以上もある。(どうしようもない) 私たちが伝えたかったのは、レースの報告はもちろんだが、整備士を目指す学生の思いなのである。(あわよくば日産校の学生が増えればなという下心もあるが…)

さて、動画の方は、なんと2本作る事になった。担当はやる気に満ち溢れた新メンバー2年生。熱意とは恐ろしいもので、ベストカーWeb編集長塩川さんとのミーティングで、「長尺を作りたい!!」という思いをそのままぶつけた。内容は割愛するが、ぜひ彼らの熱意を見てほしい。皆様にならこの熱意が伝わるだろう。(可能なら拡散して欲しい…)

ここまで心の声ダダ漏れのあとかきではありましたが、最後くらいは丁寧に締めさせていただきます。

KONDO Racing Team さまを始め、日産自動車、ベストカーさまや広報支援部のみなさん、我々学生に支援してくださっているスポンサーさま、読者、ファンの皆様に支えられてこの活動が成り立っていることを学生一同を代表して心より深く

感謝申し上げます。

4年 一ノ瀬 正志

3年 岩下 愛花

大野 峻吾

2年 加藤 隆也

小林 丈琉